世田谷区基本構想審議会第2部会（第5回）

会議録

平成24年9月4日

世 田 谷 区

世田谷区基本構想審議会第2部会（第5回） 会議録

【日 時】 平成24年9月4日（火） 午後6時30分～午後8時30分

【場 所】 世田谷産業プラザ 会議室

【出席者】

■委員 松島茂（部会長）、小林正美（副部会長）、永井多恵子、桑島俊彦、永井ふみ、高橋昭彦、村田義則、上野章子（第3部会）、宮本恭子（第3部会）、田中優子（第3部会）、石崎朔子（外部学識経験者）
以上11名

■区 田中基本構想・政策研究担当部長、望月基本構想・政策研究課長、小田桐政策企画課長、笹部政策経営部副参事、梅田スポーツ振興課長、

【会議公開可否】 公開

【傍聴人】 12人

【会議次第】 議 題

- 1 第2部会の検討テーマについて
スポーツ
- 2 これまでの議論について
- 3 その他

【配付資料】 資料1 スポーツ

資料2 第2部会の議論の整理

資料3 基本理念のキーワード

午後6時30分開会

（松島部会長）

- ◆ 定刻になりましたので、基本構想審議会第2部会第5回審議会を開始いたします。よろしくお願いいたします。
- ◆ はじめに事務局より、組織改正と担当者の変更の件について、ご報告をお願いいたします。あわせて基本構想審議会の委員に変更がありましたので、報告をお願い申し上げます。

（事務局・田中基本構想・政策研究担当部長）

- ◆ 机の上に「8月1日以降の「基本構想審議会」事務局体制について」という資料が置いてあると思いますので、そちらをご覧ください。
- ◆ 世田谷区では、4月1日付けで、組織改正を行っております。これまでは政策経営部の下に政策企画課と政策研究担当課というところがございまして、そちらの両課で基本構想については担当していたところがございますが、8月1日の組織改正で基本構想と政策研究の2つを主な職務とする、「基本構想・政策研究担当部」という部を新設いたしました。そちらの方で今後全体の進行、調整等を行っていくこととなりますので、よろしくお願いいたします。
- ◆ 私は基本構想・政策研究担当部長になりました田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それから、基本構想・政策研究担当課長の望月です。

（事務局・望月基本構想・政策研究担当課長）

- ◆ 基本構想・政策研究担当課長の望月です。よろしくお願いいたします。

（事務局・田中基本構想・政策研究担当部長）

- ◆ あわせて、この第2部会の担当が吉田から笹部に代わっておりますのでご紹介します。

（事務局・笹部政策経営部副参事）

- ◆ 笹部でございます。よろしくお願いいたします。

（事務局・田中基本構想・政策研究担当部長）

- ◆ 部会の途中の交代で申し訳ありませんが、どうぞよろしくお願いいたします。
- ◆ そして組織改正については以上でございますが、続きましてこの第2部会の委員の交代についてご報告いたします。こちらの第2部会にはこれまで環境部門のご専門ということで、NPO法人環境エネルギー政策研究所所長の飯田哲也委員に委員としてお願いしておりましたが、飯田委員から辞任の意向がございました。新たに委員といたしまして、幸せ経済社会研究所所長、環境ジャーナリストである枝廣淳子氏に委嘱を

しておりますのでご報告いたします。なお、本日は日程が合わずにご欠席ということ
でございますので、この次に出席いただいたときに改めてご紹介させていただきます。

（松島部会長）

- ◆ ありがとうございます。続きまして事務局より本日の出席委員の確認をお願いいたします。

（事務局・笹部政策経営部副参事）

- ◆ 事務局から出席状況についてご報告いたします。
- ◆ 部会名簿をご覧ください。本日は第2部会全員ご出席でございます。また、外部委員といたしまして、区のスポーツ振興審議会から石崎朔子委員がご出席でございます。また他の部会からは上野委員と宮本委員と田中委員がご出席でございます。以上11名がご出席でございます。

（松島部会長）

- ◆ ありがとうございます。本日は大きく2つの議題がございます。今まで議論をしてまいりましたけれども、まだスポーツについては議論が十分に行われていないということで、一つはスポーツを取り上げようと思います。もう一つはこれまでの議論のとりまとめを今日はしたいと思います。
- ◆ 2つの議題をこれから行ってまいります。まず、最初にスポーツについて取り上げたいと思います。本日は外部委員としてスポーツの専門家であります、世田谷区スポーツ振興審議会副会長の石崎朔子委員にお越しいただいております。それでは石崎委員よろしくをお願いいたします。

（石崎委員）

- ◆ 皆様こんばんは。ただいま紹介されました世田谷区スポーツ振興審議会副会長をしております、石崎と申します。今日はこの基本構想審議会という大変重要な構想委員会にお招きいただきまして、スポーツの分野をもう少しわかりやすくというようなお話を頂戴いたしました。役不足かと存じますけれども、皆様にスポーツについてお伝えしていきたいと思います。

（松島部会長）

- ◆ 引き続き事務局から資料の確認をお願いします。

（事務局・笹部政策経営部副参事）

- ◆ 事務局から今日の資料の確認をさせていただきます。まず、スポーツに関する資料は、資料1でございます。

- ◆ 次に第2部会のまとめについての資料が、資料の2番と3番でございまして、それぞれA3とA4の資料になります。その他、風景づくりに関連する資料を準備しております。後ほどお配りいたします。また、その他でございしますが、座席表と名簿と前回の議事録等がございます。

（松島部会長）

- ◆ ありがとうございます。先ほど今日の2つの議題をご紹介いたしましたけれども、最初の議題であるスポーツを取り上げたいと思います。
- ◆ それでは石崎委員からご説明よろしくお願いたします。

（石崎委員）

- ◆ それでは時間もございまして、早速説明させていただきたいと思います。
- ◆ ロンドンオリンピック、現在ではパラリンピックに移行して、相変わらず盛り上がっておりますけれども、この度のロンドンオリンピックは大変にチームプレイ、チーム競技が非常に良い成績を収めたということは皆様認識していらっしゃると思いますし、中でも女子が非常にパワーを発揮したということでは、女性の1人として大変うれしく思っております。
- ◆ このスポーツですが、50年ぶりにスポーツ基本法が改正されました。同法は基本的なことです。皆様にご紹介してまいりたいと思います。一つ目ですが、このスポーツ基本法が制定されたということは、皆さんすでにインターネット等でご存知ではないかと思いますが、昭和36年に制定されたスポーツ基本法は、わが国のスポーツに大きく貢献してきました。たとえば、1964年の東京オリンピックを軸にして、非常に国民がスポーツに関心を持つだけではなく、体力の向上という意味で、大変に貢献してきました。
- ◆ それから50年が経過しました。スポーツは広く国民に浸透してスポーツを行うという目的が多様化するということで、スポーツクラブの成長、競技技術の向上等々、プロスポーツの発展にまで影響して、今や国際交流にも役に立っているというところでございます。
- ◆ こうした状況を踏まえまして、スポーツの推進のための基本的な法律として、議員立法によってスポーツ基本法が成立しました。
- ◆ そして、スポーツは世界共通の人類の文化とされていますが、スポーツ基本法の前文はこの言葉から始まっています。まずはスポーツの価値や意義、スポーツの果たす役割の重要性が示されているわけです。1番大きく狙われているものとしては、スポーツを通じて幸せで豊かな生活を営むことは、すべての人々の権利だということが1番最初に出てくる項目です。われわれが将来にわたって幸せで、豊かだというのは、元気で長生きということです。その為にも、このスポーツというのは大事だと言われています。

- ◆ この中に出てくるのは、競技水準の向上や、地域スポーツの推進です。競技力だけの向上にとどまらず、地域スポーツの活性化、こういったようなものを推進するということがスポーツ立国の立憲を目指して、国家戦略として進めていこう、スポーツに関する政策を総合的・計画的に遂行していこうというのが目的であります。
- ◆ ここで第1章ではこの理念が記載されています。どのような理念でスポーツ基本法が成立しているかと申しますと、8項目書かれています。皆様のお手元の資料にあると思いますが、8項目のうちの①では「自主的、自立的」ところが最も重要です。
- ◆ ②をみると、「学校、そしてスポーツ団体、家庭および地域における活動を相互に連携」と、大変広範な対象になっています。
- ◆ ③では「地域のすべての世代の人々の交流を促進し、交流の基盤を形成」と記載されています。すべてというのはいろんな意味を含みます。健常者も障害者もすべて含んで、さらに世代の人々の交流を促進するということがベースになっています。
- ◆ ④の「スポーツを行う者の心身の健康の保持増進、安全の確保」、さらには⑤では「障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮」と書かれています。つまり障害者をここで大変クローズアップして考えていかなければならないことが、うたわれています。
- ◆ ⑥では「競技水準の向上に資する諸策相互の有機的な連携を図りつつ、効果的に推進」ということが記載されています。
- ◆ ⑦では「国際相互理解の増進および国際平和」とあります。今、国家間でストレスなことが起こっていますが、スポーツを通じての交流、スポーツを通じての国際平和というようなことも、スポーツの担う役割として考えています。
- ◆ ⑧では「スポーツに対する国民の幅広い理解および支援」が必要だということも書かれてあります。
- ◆ ここで重要になりますのが、「国、地方公共団体の責務」でございます。「国、地方公共団体は、基本理念にのっとり、スポーツに関する施策を策定し、実施する責務を有することが定められています」。つまり、都や区市町村において、それぞれの地域にあったスポーツ基本方針というものを検討して、進めていかなければならないということが、これまでのスポーツ振興法とはちょっと違って、非常に明確に出されたということが大きいと認識しております。
- ◆ スポーツ基本計画でございますけれども、今そこに書かれてありますように、「文部科学大臣は、スポーツに関する施策の総合的・計画的な推進を図るため、スポーツ基本計画を定めなければならない」しかし、これは審議会の意見を聞いて進めるということになっています。そういう意味では「地方スポーツ推進計画」ということも必要になります。「基本的条件の整備」をしながら「指導者の養成」や「施設」の問題、ここでは「学校施設の利用」と記載されており、どうしても学校という施設というものを有効活用しなければならないということが、常に話題になりますけれども、特「国立、公立の学校の設置者は、学校教育に支障のない限り、学校のスポーツ施設を一般のス

ポーツのため」に利用していただくように、努力してほしいということです。そのようなことも書かれてあります。

- ◆ それから「多様なスポーツの機会の確保のための環境の整備」これはとても大事です。どういうことかと言いますと、かつては学校体育、社会体育等と言ってきましたが、今は地域におけるスポーツの振興のためには、いろんな事業への支援が大変必要になります。そういう意味では総合型地域スポーツクラブというようなものもできてまいりましたし、住民が主体になって運営するスポーツクラブというものが必要だということが、資料1の11番の目指すところであります。
- ◆ そして資料1の12番には、「競技水準の向上」とあります。これはこれから2013年に東京都が主催する国民体育大会等々がございませけれども、そういう意味では「優秀なスポーツ選手の育成」も必要であり、国民体育大会というのは選手のみならず、それを支える人たちにとっても有効だということで、国民体育大会を位置づけています。
- ◆ そして「国際競技会大会の招致・開催」というのは、やはりトップレベルの選手のプレイやパフォーマンスを見ることによって、多くの者が大きな刺激や元気をもらい、パワーアップできるという意味では、国際競技会の招致等も必要になると思います。
- ◆ 「スポーツの推進に係る体制の整備」では、主には「地方自治体のスポーツ推進会議」を進めなければならないということです。これは先ほど申し上げましたけれども、都道府県・市町村がスポーツ推進審議会等の会議を置きなさいということも定められています。昔はスポーツ推進のところでは体育指導員と言ってかつては「体指」という呼び名で言っておりましたけれども、今は「スポーツ推進委員」というものを置くということになっています。
- ◆ また、「国の補助」ということに関しましては、「地方公共団体の補助」に対して「スポーツ団体が行うスポーツの振興のための事業に必要な経費の一部を補助する」というのがございます。しかし、これらを補助する場合、必ず審議会の委員の審査、あるいは賛同が必要になりますので、18番の「審議会等への諮問等」が必要になります。
- ◆ それでは「スポーツ立国戦略とスポーツ基本計画について」考え合わせますと、「文部科学省では、平成22年8月、今後おおむね10年間を見すえ、スポーツ立国の実現に向けて必要となる施策の全体像を示す「スポーツ立国戦略」を策定いたしました。「新たな「スポーツ基本計画」の策定」に向けてこれを進めているわけです。どういうことかと言うと、「新たなスポーツ文化の確立」としては、「すべての人々」すべてというのは、子どもから高齢者まで、健常者も障害者も全部含めてということで、スポーツを楽しむ、そして感動を分かち合い、支えあう社会へということが、目指す姿とされています。「基本的な考え方」としては「する人、観る人、支える人の重視」です。プレイする人だけではなく、それを観て楽しむ、あるいはそれを支えるというような人も必要だということです。この戦略1、2、3、4は、「総合的なスポーツ行政体制の検討」としては、これは今後皆様にもご検討いただく形になるかと思っておりますけれども、「スポーツ振興財源の在り方」等を予算という形で計画されるものと、受益者負担

というものの双方から考えていくところに移行していくと思います。

- ◆ スポーツ基本法のことを、ざっと時間的なことも考えましてお話させていただきました。お手元にも資料がございますのでご覧下さい。このスポーツ基本法を下地として、世田谷区について考えてみますと、このスポーツ基本法をどのように解釈して施策していくかということが問題になるかと思います。
- ◆ 私が所属しております世田谷区スポーツ振興審議会は、このスポーツ基本法に対応して、生涯スポーツ、子どものスポーツ、あるいは現在開催されているパラリンピックのような障害者のスポーツ、あるいは競技者のスポーツといった3つから4つのグループに分けて検討しております。
- ◆ 世田谷区は大変大きい区ですが、その割にはスポーツの場は少ないのではないかと感じます。そういう意味では公園、あるいは学校が有効活用できる創意工夫が必要でしょう。スポーツに関心がない人にどのように興味を持たせるか、また、少子高齢化の時代、高齢者が大変多くなりつつある中での、中高年に対応したスポーツ振興、あるいは健康維持増進に努めるかです。そして、東京都のスポーツ振興においても、障害者スポーツと子ども体力のあり方は大変大きな話題になりました。子どものスポーツの機会が少なくなっているようで、そうではない側面もある。つまり、最近では、子どもの運動が二極化していると思われれます。具体的には、小さい時からかなり運動に特化してやっている人もいれば、全然係わらずに、ゲーム等による遊びで過ごしてしまうという子どももあり、二極化しているということも話題になっています。そうすると、学校教育現場における指導者の育成も大変重要になっています。教育現場は9年教育に移行しつつあります。そうしたところによる、部活、クラブ等の連携、こういうのが大変重要であり、そういう意味では過去と比べて現在は生活が多様化して、地域のスポーツが大変盛んになってきているということがいえるかと思います。
- ◆ 世田谷区では総合型地域スポーツクラブがあり、全6箇所あります。小さい丸がついているところでは、まだ広場と捉えられていて、今後総合型スポーツクラブに移行できる可能性があります。総合型地域スポーツクラブは、他種目を集めてみんなで取り組むものですが、広場では1種目で集まってやっているというところなんです。広場がもう少し活発化していくと、地域に根ざした子どもから大人までの、運動のできる場づくりということができるとかと思っています。
- ◆ 障害者のスポーツは特に、健常者と一体となったスポーツの取り組みというのが重要になるだろう、そして障害者を支える人材というのも必要になります。われわれは特に世田谷らしさということが審議会の話で出るわけですが、これまで世田谷は「芸術文化の世田谷」ということをよく聞いておりましたけれども、246 ハーフマラソンを機会にスポーツの世田谷というのも大きくクローズアップしています。
- ◆ しかし、これらを分けて考えるのではなく、一体化して考えるものではないかと考えております。つまり、世田谷らしさを踏まえれば、いつでもどこでもだれでもいつでも運動ができるというような状況を、われわれが長く生きていくためには、芸術、

文化、そしてスポーツ、これは両輪だと理解しています。ぜひとも一体化した考え方で進んでいかれるということが希望であり、今後委員会でもそのような話を進めて、具体的に世田谷にふさわしいスポーツ振興を検討していきたいと考えております。

（松島部会長）

- ◆ 石崎委員からスポーツ振興についてお話いただきました。世田谷という基礎自治体の中でスポーツをどう捉えていくかについて、若干議論をした上で、次のテーマに入っていきたいと思えます。どなたからでも、スポーツに関してこういう考え方でこう取り組む、長期的に取り組んでいくべきではないかというご意見をいただければと思います。どなたからでもご発言いただければ幸いです。

（上野委員）

- ◆ 今お話があったのですが、人材の不足ということと、私どもの子どもが中学生の時に、クラブ活動をやりたくても、教師が結局指導できない、それから1人の教師が何個ものクラブを渡り歩くような形で、子どもたちの指導が徹底できないというのを目の当たりにしてきましたが、人材確保はどのようになっているのでしょうか。

（石崎委員）

- ◆ ご指摘のことはもっともだと思います。中学とかで部活動をしていて、そちらに専門の先生がいれば、その活動は大変活発になるけれども、転校してしまうと、そのスポーツはできなくなることは審議会でもよく議論されています。
- ◆ 現在、区内にある大学と人材バンク的に連携をして、ここから指導者を派遣してもらおうという方策を進めております。これは、世田谷区の教育委員会でも実施しておりますし、審議会の中でも公開講座や、直接学校に連絡するといった努力もしています。

（松島部会長）

- ◆ 今、指導者の問題が出ましたが、要するに種目やスポーツを経験したお父様方やお母様方のように地域の中で、スポーツのクラブ、スポーツの集まりに積極的に参加していくということが期待されてもいいかもしれません。
- ◆ ポイントの一つはおそらく、コミュニティの中でスポーツをどのように根付かせるか、あるいはそのスポーツを一つの手がかりとしてコミュニティを作っていく、そういうような観点からスポーツを考えるということも、大事ではないかと思えます。他のご意見ございますか。

（小林副部会長）

- ◆ 私はスポーツが好きで、テニスとかいろいろ毎週やろうとすると、なかなか一般の区立の施設を借りるには非常に競争が激しくて、結局民間のジムにみんな行くようなこ

とになっていると思います。公立や私立のジムの関係とか、動向というのを少し解説していただけますか。

（梅田スポーツ振興課長）

- ◆ 今の私立と区立との考え方ということですが、私どもの方でも議論の中でそういったスポーツ支援だけではなくて、場の提供をいかにして増やしていくか、整理しているところがございます。
- ◆ 地域でスポーツをしていただくのに、世田谷区はこれだけの面積の大きい区ですが、施設が必要となるスポーツ、たとえばテニス、野球、サッカー等の場がかなり不足しております。これについては、今後場の提供ということで、審議会の中でも揉んでいただき、これから検討を重ねる形になるかと思っております。

（松島部会長）

- ◆ 予算の制約の中ですからそう簡単には施設が増えていかないと思います。私は今の議論と少し絡めて申し上げますと、コストを負担できる層はそういう私的なサービス提供と結びつけていくことが、一つのポイントだと思います。ただ、負担能力のない人、つまり子どもや高齢者にどのようにスポーツの機会を作ればいいのか。特に、高齢者にとってスポーツは健康増進のためにとっても大事な要素であり、これは高齢者福祉の負担を少なくすることに繋がる。これから増えていく高齢者等へ、どのようにスポーツの機会を地域ごとで作っていくかが重要である。この「地域ごとに作る」ということが実は大変であり、大事だと思います。なぜなら、高齢者は電車や車で遠くまで行けません。現状を地図の上に貼り付けて、サービスと機能をあわせて議論していくといいのではないのでしょうか。

（桑島委員）

- ◆ 健常者と障害者、パラリンピックは厚生労働省、一般の方は文部科学省で所管が異なっています。昨日、実は東京都議会へ行きまして、少し議論してきたのですが、東京マラソンは健常者の優勝賞金が男女ともに 800 万です。ところが車椅子マラソンの優勝者は 20 万円で、健常者の約 40 分の 1 に留まります。欧米では車椅子マラソンの方でも 120 万～150 万の優勝賞金を用意しているのに、なぜ日本ではそんなに差があるのか。優勝しても、遠征費も確保できません。
- ◆ 世田谷のハーフマラソンではわかりませんが、障害者スポーツへのてこ入れをしないと、海外から東京マラソンが世界の 5 大マラソンになっても、エリート選手が集まりません。今回オリンピックの優勝者には 300 万の報奨金が出るそうですけれども、パラリンピックの方は 100 万、それでも 3 分の 1 ですから 40 分の 1 よりは改善していますが、よりパラリンピックの方々にも活躍してもらうには、このあたりの整備も進めていかないとなりません。これは世田谷だけの問題ではないと思っておりますけれども、区

としての考えを少しお聞かせ願いたい。

（石崎委員）

- ◆ 桑島委員の指摘のとおり、東京都のスポーツ振興審議会の中でも、障害者の問題をもう少し健常者と同じように取り扱っていかねばならないことは、大いに話題になりました。たとえば、すぐに解決できないでしょうが、メディアの取り上げられ方も非常に差があるのではないかというお話がありました。おそらく今後この健常者と障害者との垣根を取り払い、公平にしていかなければいけないと思っていますし、所管省庁が違うというところが少しやっかいであるものの、少し折り合いをつけ、スポーツ基本法に書いてようにすべての人に享受できるようにきっちりやっていただきたいと、各省庁に声を高らかに述べていきたいと思っています。

（松島部会長）

- ◆ 他にも議論していただきたいと思っていたのですが、今議論があったお年寄りや高齢者の論点を少しだけ変えて、今度はお子さんをお持ちの方々にどのようにスポーツとその問題を捉えたらいいかを議論したいと思います。おそらく学校との関係もあると思うので、永井ふみ委員、宮本委員にご意見をいただきたいと思います。

（永井ふみ委員）

- ◆ 私の家族はまだ子どもが小学生に上がっておらず、やはり子どもはまだスポーツするわけではないので、本当に子どもに手がかかる世代の親の観点から意見を述べさせていただきます。かつてはリフレッシュのためにスポーツをしており、スポーツ経験があつて続けたいって思っている親御さん等は、きっと非常に悩まれており、そういう機会がないためストレスに感じていると思います。
- ◆ そうでなくても、私もそうですが「もっと外に出て行って体を動かしたい」、「ずっと子どもを抱いて肩こりがつらいし運動したい」という方は多いと思います。小学生に入らないような小さな子どもを抱えている子育て世代としては、子育て支援とスポーツがセットで考えて欲しいです。この場合には、スポーツだけではなく、子育て支援としてリフレッシュ保育とか、誰でもいつでもどういう理由でも気軽に子どもを預けて、子育てのストレスを解消するとか、気分転換ができるような、そういう支援を充実させていただけると嬉しいと思いました。

（松島部会長）

- ◆ ありがとうございます。それでは宮本委員お願いします。

（宮本委員）

- ◆ 私の子どもは小学校2年生の女の子ですが、野球をやっています、小学校3～4年

生の男の子に混じっています。誰が教えるかという、野球経験者のお父様がコーチとして来られて、場所は小学校の敷地を利用してクラブ活動をやっています。おそらく先生がクラブ活動というよりも、これから現実的なのはそういう親御さんの多大な尽力が必要かもしれません。私も当番で毎月駆り出されることが多いのですが、そういう父兄が地域の子どもを育てる、そしてそういうスポーツ経験者がどんどん学校の場で活躍するというのが、もしかしたら現実的なスポーツクラブの一つの形だという気がしています。

- ◆ ただ問題として一つ感じるのが、働いているお母様とか、お忙しいお父様は、やはりそういうクラブには子どもがやりたいと言っても、簡単に参加できないという二極化は確かにあります。そういう子どもがスポーツの場にはいるためには、私立のクラブチームになるため、このあたりが課題と感じています。
- ◆ 質問ですが、先日新聞を読んでいて、日本のスポーツに対する財源が先進国の中でかなり低く、それが獲得した金メダルの比率と相関関係があるような取り上げ方をされていきました。世田谷区は他の区と比べ、スポーツ関連予算は全予算に対してどの程度なのか教えてください。

（梅田スポーツ振興課長）

- ◆ 正確な数字はわかりませんが、それなりの予算要求はしています。ただ、世田谷区も財源との問題もあるため、他区に比較して飛びぬけて多いことにはなっていません。

（永井多恵子委員）

- ◆ スポーツとの出会いは子どもが小学生の時だと思います。いまだに公立小学校では専任教師制度がありません。この時に体育に関心を持っている教師にあたると、ものすごく子どもの体育能力が高まります。私の経験から言いますと、たまたま子どもの担任の教員が日本体育大学等、体育を専門とする人でした。彼が課外活動でバスケットを教えてくれたため、私の子どもにとっては、友達づくりや、人間形成、相手のことを思う気持ち等、生き方につながっていくような非常に大事な体験になりました。
- ◆ 私自身は私立小学校だったものですから、専任の講師が体育にもおりました。財政が厳しいとは思いますが、先生等の人材配置は教育委員会の仕事であり、スポーツ振興課というのでもないかもしれませんが、学校で共有の専任の体育教師等の工夫はあつてしかるべきだと思います。
- ◆ スポーツは応援する父母、PTAでも非常に盛り上がりやすく、お母さん同士で一種のコミュニティができ、また続いていったらいろいろなネットワークができるような気がします。そういう意味でスポーツというのは非常に大事なことだと思います。卒業しましても場づくりがとても大事でして、公共の場であればいいですけど、いろんなところで場が提供されるということが望ましいと思います。
- ◆ コマーシャルをずいぶん進めているスポーツクラブがありますが、障害者のスポーツ

のように、商業ベースでできない部分というのを公共で担当する必要があると思うのですが、何か世田谷区では取組を進めていますか。

（梅田スポーツ振興課長）

- ◆ 私どものほうで、スポーツ振興財団というところがございまして、区のスポーツ振興課とそちら財団の方と両方で区のスポーツ振興に携わっているわけなのですが、その中に障害者のスポーツ教室を進めております。また、先ほど、石崎委員から説明がありました。総合型の地域のスポーツクラブの方でも、なかにはそういった教室を開いているところもございます。

（松島部会長）

- ◆ このテーマはたくさん議論があると思いますが、もう一つの大きなトピックがありますので、このへんでスポーツの議論を終えたいと思います。もし、一言あればご意見ください。

（田中委員）

- ◆ 今、永井多恵子委員の意見にもありました、小学校でスポーツの専任の先生がいないというのは非常に実は問題です。私は議員になる以前に中学校の体育教師を務めたことがあります。このような問題は中学校の体育で顕在化します。
- ◆ 小学校の時に身に着けていけば簡単にできることが、もう第2次性徴の中学生になってしまうと簡単に身につけません。小学校で習っていなくてもできる子はいますが、小学校でやっていけば苦手でもできたはずなのに、跳び箱も鉄棒も全部だめという子どもたちがいます。それで苦手意識を持って運動が嫌になっている子どもは特に女子に多く、非常に苦労しました。でも、小学校から教えればできるようになっていきます。ただ歳をとると非常に難しいです。だからすごく大事なことを指摘して下さったと思うのですが、そういう体育の専任がつけられないかというのが一つあります。
- ◆ それから、部活の問題等はみなさんご存知かと思うので、もう一つ別の視点で申し上げますと、全国の文部科学省がやっている子どもの体力テストで3年連続1位を取っている東広島市の豊栄中学校に視察に行ったのですが、特別な取組は唯一週1回体育朝礼をしているだけです。体育朝礼というのは、もちろん普通に体操やって、馬とびをやったり、腕立て伏せや腹筋もあることや、雑巾がけ、それから倒立をやるのです。毎週20分くらいの体育朝会を全員がやるというだけで、こんなに体力って変わるの?!というすばらしい取り組みを見て、世田谷区でもぜひこれを導入したらよいのではないかと議会でも言いました。やはり学校の自主性に任せているということではなかなかこの世田谷全体の学校に広がりませんが、こんなにお金もかからず、簡単でたった週1回やればよいことなので、こういうことをぜひ取り組むというような雰囲気を作れないのかなと非常に思いました。これは一つの良い例で、今子どもの背

筋力が30年前の半分程度になっているというのが非常に問題になっています。このままでは、介護で人を支えることができない、自分を支えることがやっただという子どもになってしまっています。だから朝礼で立っているのも辛く、授業をきっちり聞けない、姿勢が悪くなるのも背筋力の低下で、背筋力のテストも禁止になったそうです。これは背筋を痛めてしまうからだそうです。急に体力テストの時だけやると、背筋がなく痛めてしまうので、背筋力という体力測定の種目もなくなりました。こういうように非常に一生の健康な体や体力は宝物なのに、それが非常に不安定になっていることは問題だと思うので、やはり世田谷区の基本構想では一つの柱にしたいだけるといいかなと思います。

（高橋委員）

- ◆ スポーツとの出会いは親子だと思います。私たちの頃は野球少年でしたから、まさにキャッチボールから始まりました。そういう意味では、そういったスポーツとの出会いにおいては、親子の絆というのが非常に大事になってきます。今はサッカーの人氣で、私の中学1年生の娘も小学校時代はサッカーをやっていました。ただ、その親子の関係というのも、非常に難しくなってくるような世の中であり、キャッチボールにしても場所が無く、近くの公園ではキャッチボール禁止です。スポーツは学校やチームの中でいろんなことを育まれるのは大事で、それは子どもの年を追う毎になってくるのですが、その最初の部分の親子であると思います。こうしたところを考慮した街づくりが世田谷できないかと、子どもの頃からも強く感じ、親になった今でも実感をしているところです。

（松島部会長）

- ◆ 今の議論からいくつか私の観点からポイントを抽出すると、一つは暮らし方とスポーツ、暮らしの中でスポーツを考える、世田谷の暮らしの中でスポーツを位置づけるということが、大事だと思います。
- ◆ 「暮らし方とスポーツ」のなかには、子ども同士の関係、親子の関係、それからお年寄りと地域の関係、そういったさまざまな関係があり、暮らし方があるわけですが、その中でスポーツを介在させることによって、今の関係がうまくスムーズに行くようになるように考えるということが、大事なポイントではないかと思いました。
- ◆ もう1点は「暮らしの中でのスポーツ」であり、これはみなさんのお話の中で、これは文部科学省、これは違う役所というような行政組織との兼ね合いの問題が出ました。私は基礎自治体でこういうものを考えるということの最大のポイントは縦割りではなくて、必要性の観点からさまざまな政策、あるいはさまざまな省庁の政策ツールをうまく組み合わせることが大事だと思います。私はそういう意味では、区のスポーツ行政、スポーツ政策の観点というのは、どこかの一つの流れではなく、全体のいろいろなところの方法手段をうまく組み合わせることを考えるということが大事だと思います。

した。これは皆さんの議論にも出ていたことです。

- ◆ それからもう一つ皆さんの議論のなかにはあまりでてこなかったことを、1つだけ申します。石崎委員の話の中に少しあったのですが、スポーツをする場の問題です。スポーツクラブを少し置きますと、公園とか学校というのが、非常に重要な場です。そういうところが、果たしてうまく的確に配置されているかという観点から、もう1回世田谷区の中の地理を見直してみる必要があるかもしれません。必要のあるところに必要のあるスペースが容易できているか、そのときにものすごく重要なことは、そのたとえば学校を一つ例にとってみますと、学校で事故が起きてはいけないということで、管理を厳しくします。そういうことによってその場の可能性が減ってしまう可能性があります。それをやはりもう1回見直すということも、スポーツのような観点から大事だというような気がいたしました。公園についてもそうです。公園と学校というのも所管が違いますから、そういう意味では結構難しい問題があるのだと思うのですが、区の行政という観点からそれをどうやって統合するかということが、一つ非常に大きな課題なのではないかという気がいたします。
- ◆ 大変豊かな議論ができたかと思いますが、これ以上やると他のもう1個のテーマがやる時間がなくなってしまいますので、少しこのくらいで切り上げて、次のトピックに移りたいと思います。
- ◆ 次は今までの議論のまとめに関わる問題でございますが、事務局のほうから今までの議論をある程度まとめていただいた素案を作っていただいていますので、これをご説明いただいて、それをもとにまた議論していきたいと思います。

（事務局・笹部政策経営部副参事）

- ◆ お手持ちの資料の2番「第2部会の議論の整理」という資料についてご説明させていただきます。こちらの資料につきましては、当部会のテーマでございます、街づくりについて防災、環境エネルギーや産業、仕事、芸術文化、コミュニティといった課題ごとに1回目から4回目のこれまでの議論、ご意見の整理をしていったん置いておいてください。スポーツについてはまた後で追加してまいります。
- ◆ 具体的な資料ですが、1番上の街づくりというところについてまず説明いたしますと、資料の真ん中がございます、課題と現状認識という項目に将来を見据えた地域としてのデザイン、道路やコミュニティバス等行政でなければならない取り組みとして整理しております。こうした課題をきちんと受け止めまして、その右側がございます、「施策につながる方向性」というところに5点のご意見を整理しました。地域デザインは発信する仕組みとして計画道路の整備やコミュニティバスの問題点等々ございます。こちらの5点を取り組むことによって、将来像である「歩いて楽しい世田谷をつくる」、「まちをデザインする」ことを重視したつくりでございます。現状の打開について近況を共有しまして、そこから受け止める施策の方向性について議論を整理したものでございまして、左側の将来像につなげていくというようなつくりでございます。

- ◆ 同時にたとえば2つの防災について申しますと、防災に係る課題と現状認識につきましては、「防災につながるコミュニティづくり」、「住宅の耐震強化」、「早期復興を目指した仕組みづくり」というのがやはり大切であることを受け止め、自分の住む環境、住む場所を良好にしているということの重要性、または商店街、区内大学等若い力の人の大切さ等、10項目に整理しました。こういったものを通しまして、左側の「楽しい防災」といった将来像に近づいていくというようなつくりで、以下、環境・エネルギー、産業仕事、芸術文化、コミュニティと整理しております。
- ◆ 続きまして、資料3でございますが、こちらの資料につきましては資料2をベースしたつくりになっています。基本理念とあって、基本構想の中でも大事な概念であります。議論はこれからでございますけれども、第2部会ではこれまでの議論から各政策テーマを想定したときに、今までのご発言からキーワードを抜き出しました。それで政策テーマの精選した上で、キーワードを抜き出した資料となります。
- ◆ 資料2と同時に見て、今後基本構想でどのような政策を想定して基本理念を考えるかといったことを形にしてみました。第2部会の議論の成果としまして、委員会本体に対するまとめとして整理させていただきました。以上でございます。

（松島部会長）

- ◆ ありがとうございます。大変豊富な内容で議論したと思うのですが、短い紙によくまとめていただいたと思います。最初に結論だけ申し上げますと、今日いただいたご意見をその場ですぐ反映できるわけではありませんので、今日いただいたご意見をまとめて、もう1回整理しなおして、それを第2部会としての本委員会への報告としたいと思います。こうした観点から、この紙にまだ足りない点はないか、あるいはこういった点をもっと強調すべきではないかというようなご意見を、これは皆さんそれぞれからうかがいたいと思います。
- ◆ 村田委員から逆時計回りとし、村田委員、高橋委員、田中委員、宮本委員、上野委員、永井ふみ委員、桑島委員、永井多恵子委員、小林副部会長、私というように全員で順番に発言していきましょう。今日は第2部会としてのフィナーレですので、みんなで議論していきたいと思います。
- ◆ 感想でも結構です。こういう議論がよかったとか、こういう議論が足りなかったとか、そういうことも含めてみんなで議論しましょう。よろしくお願いします。

（村田委員）

- ◆ 全体の部会の討論を通じた感想としては、今日も石崎委員においでいただきましたが、専門家の方にお話いただき、基本的なわれわれの寄って立つべき考え方みたいなものを出していただき、それで議論を進められたというのは非常に良かったです。
- ◆ その中で議論しながら新しい課題が出てきて、防災問題でいうと、今回の南海トラフで32万人がという話が出てきて、改めて自治体の各課がその中で危険ですというだけ

でなくて、最悪を想定しながらどうやったら実際の防災ができるか、そういうことを政府の側も繰り返しテレビでも言っていましたけれども、あのような視点が非常に大事だなと思いつながら聞きながら感じました。

- ◆ 振り返って東京をみますと、東京といえば首都直下地震の被害想定が出されております。これに対してこの被害想定を、どう私たちの世田谷区で行政と住民が力を合わせて実際に被害を少なくするということができるかということも、非常に大事な課題だと思っております。そういう中で、少しまとめとの関係で言うと、2つ意見を申し上げたいと思います。
- ◆ 一つは議論があったかと思うのですが、防災対策の地域のコミュニティ、地域が大事だという話があったと思うのですが、その地域をコミュニティとして確立していくことと、地域の防災計画、防災カルテみたいなものを住民と一緒に作る、行政だけが作るのではなくて、自分たちの町はどこをどうすれば自分たちが安全なまちにできるのかというのを、コミュニティと行政が一緒になった防災対策という部分を考えていくことが、非常に大事だと感じています。このあたりを資料2にもう少し付け加えていただけたら良いと感じました。
- ◆ また、この基本理念のところがわかりにくいです。防災の基本理念は各自が区民としての自覚を持ち、自分の身は自分で守ろうという考え方を進めていかないとまくいかなないということですが、これは当然なのですが、基本構想とは何かを考えた時に、区民に向かって自分の身は自分で守れと指摘するだけでは何にもならないと思います。行政の役割を示し、行政と住民がどう力を合わせて被害を少なくできるか、まちを作るかといったような表現がないと、少し紋切り型になるような気がいたしました。

（高橋委員）

- ◆ 防災と街づくりはセットだと思うのですが、防災は、自助・共助・公助とよくいわれ、自助が7割、共助が2割、公助が1割であるそうです。いざというときに「公助は役に立ちませんよ」であり、「自分の身は自分で守りなさい」ということです。あまり公助はあてにできないという話になるわけですが、しかし、公助の役割というのは本当にそうなのかと思います。公助がしっかり備えがなければ、いざというときに共助も自助も役に立たないと思います。徹底的にこの公助はここまで備えたよという状況になるのが1番大事なのだろうと思います。今、村田委員の意見にもありましたが、区の役割、つまり公助の役割をもっと区民に伝わるような、インパクトがある取組が大事だと私は思います。
- ◆ また、これからは都市の更新時期だと思っています。東京オリンピックが終わって50年たっていて、その東京オリンピックの時に整備したものすべてが、老朽化を迎えます。世田谷区では、すべての公共施設が小・中学校を中心としたすべてが一気に建ちあがって、一気に時代が変わって、一気に政府が変わる、50年前がどうだったかといえば、すべてのトイレは汲み取りだったと思います。それが全部水洗に変わるといっ

たことと同じように、まったく木造が鉄筋に変わる、これが全部更新時期を迎えたのであって、老朽化対策というのが本当に大きなこれからの1番大切なところだと思います。道路も上下水道も電気も家も公共施設もすべてが全部更新なのだろうと思っていますし、これらをうまく更新していくことが、大事なポイントだと思います。

（田中委員）

- ◆ 気持ちはわかるのですが、この資料2の基本理念というのが凄く長い文章であり、基本構想を語る時にはキャッチコピーのようにわかりやすくするが良いと思います。たとえば「首都直下地震でも助かるまち」とか、「復興がどこよりも早いまち世田谷」のような形で、実施のために何が重要かということが構造的に備わっていけばよいと思います。
- ◆ 昨日、第3部会がありまして、教育や子どもの問題もあります。「税金を払う大人になろう」みたいな自己責任を考える表現も必要ではないかと思うわけです。もちろん払いたくても払えない人への差別があってははいけません、今は少し引きこもりの問題もありますし、大人になってもそのままという問題を抱えているとか、いろんな責任の取り方、自立した大人、自立した社会をみた時には、こうしたイメージが必要ではないかと思って、そういった言葉を考えてみたりもしました。
- ◆ 村田委員や高橋委員の意見のように、防災や災害からの復興が、とにかく誰にも、障害のある方も、お年寄りでも、外国の方でも、みんなが必要なことなので、そこを軸にそえて何が重要かという、これからの世田谷ということを考えていくべきだと思います。そこには、都市の更新も必要になるし、様々なことがカバーできると思います。
- ◆ また、職住近接の街づくりを目指すことも、他にもいろんなことに繋がっていくかなと思います。

（宮本委員）

- ◆ 私自身の体験ですが、私は子どもを介して地域に溶け込んでいけたことを、環境的に感謝しています。たとえば、先ほどの少年野球もそうなのですが、一見泥臭くて、普通だったら避けて通りたいような役割や仕事にこそ、地域とつながっていくきっかけがあると自身の育児を通して感じます。
- ◆ 地域と繋がっていくことで、もしかしたら被災した時に、自分さえ良ければよいじゃなくて、見知った人みんなを助けたいという気持ちに繋がるように思います。そう考えると、やはり孤立してしまいがちな方をいかに地域に関わらせていくきっかけづくりが、とても大事だと思います。

（上野委員）

- ◆ 私は世田谷に本当に住んで良かったなというのを、今回のいろんなお話を聞いて本当に思いました。アンケートの結果とかも、一般の方々からのいろんな意見を見ていま

したら、すごく世田谷ってレベルが高いです。これもすごく安堵したことの一つですし、私はやはり成熟した街づくりをしていくというのが、私は1番大事なことだなというのを強く感じました。

（永井ふみ委員）

- ◆ 私は5つくらい思うことがありました。当初この議論を始めた時に、世田谷ブランドにはどんなものが必要かなというような議論からはじまり、「みんながここをふるさと思えて、外からも来たくなるまち」というあたりがポイントだったかと思うのですが、そういう上で細分化されてしまい、全体のよさが見えづらくなったと思いました。
- ◆ 1点目は細かいところですが、資料2の1ページ「街づくりについて」の上から4点目で、みどり率は量の充足だけではなく、議論の中では屋敷林とか国分寺崖線のみどりや、農地のみどりが非常に強調されてきたかと思うので、量だけではなく、みどりの質の保全というのも、成熟した世田谷ブランドを築いていくために絶対に必要だと思いました。
- ◆ 2点目は歴史についても話があがったと思うのですが、それが今ぱっと見た限りでは見当たりません。やはり歴史を生かした街づくりとして、歴史的な資源はもちろん大事にするとともに、そこから街づくりをスタートしようというようなまちの個性や生い立ちを大切にしたい街づくりが基本になればいけないと思いました。
- ◆ 3点目は、子どもの遊び場という空間の議論が欠けていたと思いました。他の部会ではプレイパークの話等もありましたが、私も公園でボール遊びができればいいという意見も持ってきたのですが、スポーツに限定されてしまうとやはりお話しづらいという面がありました。空間としての子どもの遊び場がまちなかでのあるべき姿は、ここまでの議論の中では欠けていました。第3部会のお話をうけ、こちらでも空間的にどうあるべきかを考えていくことも大切だと思いました。
- ◆ 4点目は世田谷ブランドや、成熟した良好な住宅地を作る上で、他のまちではやはり景観や風景づくりを非常に大切にしている中で、世田谷も現在進行形かもしれませんが、街づくりの先進都市として、やはり全国に名を馳せてきたように様々な取組をすすめてきました。こうした中で、資料2で風景について一つも言及されていないことが非常に残念だと思います。私のほうから、資料が各委員に配付していますが、世田谷の都市デザインの潮流の今現在中にある取り組みで、世田谷では風景づくりと言って、人が作っていく風景を非常に大切にされて取り組まれていると思います。こうしたことを大切に位置づけていく必要があるのではないかと思います。住民は風景や景観というのが、誰もが見てわかる入り口にあり、街づくりの専門家としては出口だと思います。そのまちのコミュニティや取組みをすべて含めて、表層に現れてくるまちの雰囲気等も含めて、いい風景が広がっていることは、コミュニティや文化に根ざしたものだと思います。やはり柱としても立てていただきたいと思ひますし、街づくりの中等にも入れていただけたほうが良いと思いました。私自身、世田谷の風景づくりに

学生の時から関わっていて、これで修士論文もまとめたりして、今も関わらせていただいています。世田谷の風景づくりの特色は議論に挙がっていたように、区民の役割をしっかりと位置づけていて、一見住宅地ばかりと見えてしまう世田谷のまちの地域性、大切な資源を地域の人の目で発掘してもらうことで、区役所としても位置づけて、その良さを発信していこうというような取り組みだと思っています。その上でこの部会を出ている「歩いて暮らせる街づくり」ですとか、「まちなか観光」ですとか、あとは「都市デザイン」というあたりでは、本当に切っても切り離せないところだと思いますので、こういう風景づくりへの取り組みは非常に示唆を与えるものと思います。

- ◆ 5点目は、最後になるのですが、私たちは将来像を実現する方法と、こういうふうを実現したいということを両方語ってきたと思うのですが、これが一緒になってしまって、割とのっぺりしてしまったのかなという感覚があります。その中で一つは区民参加等の区民の役割や、行政としての役割というのを明確にしていくべきではないかというお話があったと思います。そういうあたりを将来像とは切り離して、役割としてしっかり実現手法を書いていく必要があるのかなと思いました。また風景づくりとも近いのですが、都市デザインというのが、再掲となっていますけれども、地域らしさを空間的に還元していく手法だと思いました。まちの将来像に出てくることは良いことだと思うのですが、少しどのように実現していくかのところの手法に近いのかなというような感覚を受けました。

（桑島委員）

- ◆ 永井ふみ委員の話にあったように、まちなか観光、住んでよし、訪れてよしというようなまちを作っていきたいと思います。この基本構想は20年です。かつての通商産業省で日本の都市景観100年委員会というのがありました。親子3代の100年で日本の都市景観を先進国並みにしたいという委員会に出たことがあるのですが、世田谷区として、20年委員会を設立してはどうでしょう。たとえば世田谷ではファサードが非常に美しくないです。それからみどり33をやっているのであれば、商店街をほとんど街路樹とかで埋める、ファサードを緑にする等をこれから世田谷らしさとして作っていったらどうかと感じました。
- ◆ これからの話は、総論賛成・各論反対の話になります。「防災について」とありますが、世田谷区の庁舎は50年以上経っていますが、世田谷の区民のシティホールで区民の誇りとなるような文化的な施設にすべきだと思っています。以前より、私はキャロットタワーを世田谷区役所にしたらよいなと思っています。ところが、なかなかそこに踏み切れず、今日に至り、もう50年も経過しています。それこそ、防災上の区民の司令塔となる施設なのです。震度5でこの間ガラスが100枚以上割れ、所々にベニヤが貼ってあり驚きました。これは、仙台の人に聞きましたけれども、震度6になると、書棚から本が飛んでくるのだそうです。震度7だと世田谷区役所は全滅すると思います。そうしたら、司令塔である職員の方どうするのでしょうか。こうした点で庁舎の検討

委員会等を開かれて答申は出ているようですが、こういった点になると異論がでると思うのですが、やはり強度の強さや使い勝手、バリアフリー、ユニバーサルデザインの観点、省エネ等の環境面からの建て替えが必要だと私は思っています。財政上の問題はありますが、何より区役所庁舎は災害活動の拠点のなるわけですから、対策本部が機能しなかったら意味がないわけで、そういう方向で改めて考え直していただきたいと思います。

- ◆ それから、区民のよりどころとなるようなシティホールを計画することを基本構想または基本計画に盛り込んだらいかと思います。
- ◆ 次に、都市機能として火葬場についてです。これは歴代の区議会で何人かの先生方が質問されていますが、いざとなると具現化ができないのです。この部会では永井多恵子委員が樹木葬について言及していましたが、これも都内で凄く人気があったそうです。火葬場は誰でも一回はお世話になるわけです。88万の都市の世田谷区に必要な施設です。私はよく葬式に参りますが、近いところでは渋谷とか杉並とか桐ヶ谷が主ですが、まだ臨海斎場は一回だけです。そのくらい、臨海斎場は使われていませんが、あそこに世田谷区が出資しているようです。それよりも、都市機能として、世田谷区、自前の火葬場をぜひ作っていただきたいと思います。

（永井多恵子委員）

- ◆ 補足しますと、樹木葬ができるように高温で焼いてほしいと思います。
- ◆ 基本理念はこれでよいのかと感じております。「歩いて楽しい世田谷をつくる」というのですが、デザインとみどりの環境という部分と2つ領域があるような気がいたします。私はあらゆる方向でみどりを高めるべきと考えており、都市計画と非常に関係があると思いますが、資料2ではあまり書いてありません。一つの問題は、緑被率、世田谷区ではみどり率が下がってきている現実なのです。
- ◆ また、世田谷らしいと書いてありますが、「らしさ」を失いつつあるのではないかと思います。非常に世田谷は高学歴の方が圧倒的に多いところなのですね。これはかなりの成熟した人たちがいるということで、私はやはり図書館というのが基本理念に抜けているような気がします。図書館をたくさん作れということではなくて、図書を貸し出せるような仕組みが欲しいのです。成熟した区民は、本を読んでいる区民のことで、映像ばかり観ていないで、やはり本を読むというのは非常に深く考えさせられます。そういう区民になって欲しいです。
- ◆ それから、コミュニティの問題について、あまり深く議論しなかったような気がいたします。コミュニティの形成は言うは易しであり、なかなか簡単には形成されにくいのが都市住民の特徴です。議論はあるかと思いますが、どうしてもその街で共通に持たなければならないような資源あるいはエネルギーのようなものを共同使用するような仕組みを仕掛けられるのかというのが一つあります。
- ◆ また、今はインターネットの時代なので、ソーシャルネットワークサービス（以下、

SNS)について何も語られませんでした。やはりSNSが世界を変えるとといった論議は非常に若い学者の間でひろがっております。これは千葉県のある町で高齢者にパソコンを教えることに加え、実践をかねて、ある時全会員制の顔写真がでるようなSNSを立ち上げたところ、非常にコミュニティの形成に役立ったとこともあります。高齢者と若い人との間にデバイドがあるわけですが、インターネットの使い方は日本では非常に間違っており、2ちゃんねるのように悪口・責任のないような発言が多いです。この使い方については、世田谷区は割と早く取り込もうとしています。うまくいっていません。SNSを立ち上げつつコミュニティの形成というのを何か考えられないかという感想を持っています。

(小林副部会長)

- ◆ 最初に桑島委員の区庁舎の話ですけれども、区役所としての機能をちゃんとしたところに置くべきだということは、それはそのとおりだと私は思います。一方で、前川國男という建築家が建てた、まだ人口が15万人だった時の区庁舎です。これはある意味では守るべき資産であるという人たちは必ずいます。私は建築家なのでそうなのですけれども、青森県では前川國男氏が建てたものは宝のように大事に使っているのですけれども、世田谷区の場合は残念ながら使い方が非常に荒かったように思います。専門家的にみると、もっと大事に使っていただければこんなに傷まなかっただろうと思います。ですから、モニュメントとして本当は別の機能を与えて、生きながらえさせるというのが一番よいシナリオだと思います。また、そうできない場合にどう対応するかは、しっかり議論をしなければいけないと思います。
- ◆ それから、全体の話なのですが、この7月に国際デザインワークショップというものを日本建築学会が下北沢・世田谷をテーマに行いまして、インドやシンガポールやドイツ等全部で30人くらいの海外の学生と日本の学生で議論をしました。その際には、私のマッピングをみせたのですが、基本的に高齢者が移動しにくいゾーンがあるということが凄く問題になりました。それから、地形の模型を彼らが作って実際に検討してみたのですが、目黒川沿いの流域の川と多摩川沿い2つに沿った遊歩道だと高齢者も移動しやすいが、環状7号線、8号線は無理矢理南北に通しているため、自転車道が現状のように走りにくくなっているという指摘もあり、かなりいい研究でした。彼らの提案をみると、主要な考えはグリーン・コンパクトシティという概念でした。グリーンとはいろんな意味で環境に配慮したという意味ですが、これからは高齢者といった弱い立場の人たちや弱者が安心して移動もできて暮らせるといった街を作るべきだという意味も込めており、世代的な潮流だと認識しました。
- ◆ 第2部会では非常に広範部分を議論してきましたが、やはり自立的な新しいコミュニティ単位をどうやって作っていくか、そのコアは小学校がいろんな子どもも集まるし、地域の拠点あるいは防災拠点として最も適当だが、これをどう活かしていくかという話があったと思います。それと職住近接でお母さんたちも子育て支援を受けながら、

そのコミュニティの中でお仕事ができるようなところを作っていくという議論があったと思います。それが発展していくと地域が育てるコミュニティと文化、これは劇場的な文化もあれば、図書館もあるしスポーツもそうですけれども、各地域の特徴を活かしたコミュニティなり文化をどう作っていくのかということが話し合われていたと思います。

- ◆ また、公助の役割の話がありました。これから公と民がどう関わるかということですが、公は基本的に交通ネットワークやオープンスペースの確保、農地の保全や被災時を想定した避難場所の確保があります。また、風景資産の保全もそうですし、こうしたものは公がリードしていかないとできません。一方で、民の方では各家族を媒介する仕組みがないと、コミュニティは生まれません。スポーツ、あるいは防災訓練、商店街の活動などの何かを絡ませるような、人々を繋ぐ仕掛けによって、常にどこにどうという人が住んでいて、いざという時の対応手段が活かされた防災活動になることを議論してきました。そう意味で、空き家の利活用などやらなければいけないことはたくさんあります。第2部会では、様々なキーワードがでたと思います。

（松島部会長）

- ◆ ありがとうございます。みなさん、いろいろご意見いただきありがとうございます。最初の方に発言した方はもう一回しゃべりたいと思ってらっしゃるのでないかと思うのですが、全体をまとめさせていただきます。
- ◆ 私なりに今までの議論を振り返って、申し上げたいことがあります。まず、この資料3にあります「まちを創る・高める」ということと、もう一つ「ひとが暮らす生きる」とあります。これがわれわれの議論した主なトピックだと思います。
- ◆ 街というのは、具体的な被災時の話や街並みの話とかといったハードウェアの話ですが、ここに暮らす人が自分の住んでいる街だと感ずる、そういったソフトなものも含めた「まちを創る・街を高める」ということだと思います。ソフトとハードの両側面から我々は議論したのではないかと思います。コミュニティとか地域とか、そういう概念で議論をしたことは、この街を作るというところに全部関わるものではないかと思えます。
- ◆ それから、もっとよくするという意味では、高めるということも大事になってくるのかと思います。街は自然にあるのではなくて、そこに住んでいる人が作っていくものです。20年という時間を考えたら、創る・高めるということを考えなくてはならないということだと思います。
- ◆ もう一つの側面である「ひとが暮らす生きる」というのは、その中で人がどういうスタイルで生きるかということですが、今日のスポーツもそうだと思いますし、防災もそうだと思うのですが、その中で人がどういう風に生きるのか・他の周りの人たちとどう繋がるのかということも、まさに「ひとが暮らす生きる」ということなのだと思います。暮らす・生きる人というのは、お子さんからお年寄りまで幅が広いのがこの世

田谷区の特徴で、ご高齢の方がこれから増えるというのは紛れもない事実ですけれども、一方でおそらく日本中の自治体と比較して、世田谷ほど子どものことを議論して、それが空々しくない地域は無いと思います。お子さんをここで産み、育てるために住まわれるという方もいっぱいいらっしゃるわけで、そういう意味では人が「暮らす活きる」というのも子どもだけではなく、成年だけではなく、また高齢者だけではなく、全体のミックスをした構成で人がどう暮らし、どう活きるかということについて議論することはわれわれが今まで何回かやってきた議論の中身ではなかったかと思っています。そういうことが一番大きな指針であると思っています。

- ◆ さらに、これから議論を整理するにあたって、ぜひ私が申し上げておきたい点が3点あります。1点目は今の時代をどう認識して、今の世田谷で基本構想を作るのか。世田谷の基本構想というのはどういう意味があるのか、ということについて腹に落としおく必要があると思います。私は今後20年間を考えた日本は、大変厳しい問題をたくさん抱え、それらを解いていかなければならないだろうと思います。その中で、世田谷は、そういった難しい問題を解くための材料がたくさんあるという意味で恵まれた区であると思います。世田谷区はこれから日本社会が迎えるだろう難しい問題に対して、われわれならこう解くと示す必要があると思います。その気概をもって世田谷の基本構想を作っていくという風に思います。
- ◆ 2点目は、発言の中で申し上げましたが、私はこの仕事を引き受けた最大のポイントは、世田谷が基礎自治体であるからです。基礎自治体であるということは、国のレベルではいろんな政策をいろんな官庁がやっております。都道府県もだいたいそれをそのまま縦で受け止めています。区市町村では縦割りでそれを処理することや、もの考える訳にはいきません。区民との関係で、それはさまざまな手段をどういう風に組み合わせるかに対して答をだすことが求められます。このため、これは〇〇省の政策だからこの部門から解決できないことは一切ないようにしていただきたい。そういったテーマの政策を縦割りに考えるのではなく、区民という視点から組み合わせる横割りのように考えて、そういう政策を発信していくことをぜひ基本構想の中では記載していただきたい。これが2点目です。
- ◆ 3点目は、先ほどの第1点目にも関わりますけれども、世田谷というリアリティ、世田谷の中で考えるということが、世田谷を材料に考えていくことが絶対に必要です。そういった意味では、小林副部長が何回か示していただいたように、世田谷の区の地図を書いて、どこにどういう人が住み、どういう施設があり、どういう道が通っているかという図を示してもらいました。世田谷らしさは、具体的な世田谷の土地を前提にして考えるべきだと思います。みどり率や、学校、スポーツの場所の問題もあの地図なしには議論は空虚になると思うのです。ぜひ、あの議論を中心に行って、リアリティのある基本構想にしていただきたい。志とリアリティの両立する基本構想すべく、これから関係者で我々もその中の一員だとすればわれわれも認識していきましょうと思いますし、また事務局・他部会の各委員にも願う次第です。

- ◆ 最後に、先ほど小林副部会長については触れさせていただきましたが、永井ふみ委員には議論のプロセスを全部紙に書いていただいています。それを振り返って、各回で議論を我々は整理していました。永井ふみ委員にもお礼を申し上げたいと思います。
- ◆ 議論がいろいろでてきたと思いますので、これをまた事務局で整理していただいて、本委員会の方に報告をさせていただきます。小林副部会長と私で最後拝見させていただき、みなさんにも途中で確認させていただきますが、最後のとりまとめの責任は小林副部会長と私にお任せいただくことでよろしいでしょうか。（異議なし）
- ◆ それでは、以上で私の方から笹部副参事にマイクをお返しいたします。

（事務局・笹部政策経営部副参事）

- ◆ お疲れ様でした。非常にたくさんのご協力本当にありがとうございました。これから、今日の資料をどう修正したらよいのか考えさせていただきます。
- ◆ それからこれからの日程でございますが、まず、今日の議事録について10日ほどで送信させていただきます。それから、第3回の基本構想についての日程は10月で日程調整中でございますので、日程が決まり次第、改めてご連絡いたします。以上でございます。委員のみなさま、ありがとうございました。

午後8時30分閉会